

「平成28年度 病虫害発生予報第7号」の発表について

向こう1か月の主要な病虫害の発生予察情報については、次のとおりです。

- ・全国的に気温が高い日が続くと予想されていることから、トビイロウンカ、ヨトウムシ類等が急激に増殖し、被害を与えるおそれがあります。
- ・梅雨時期に飛来したトビイロウンカは、特に、梅雨明け後の気温が高く推移した年の9月下旬以降に、急速に個体数が増加することがあるため、注意が必要です。各都道府県の防除基準等に従い、適期に適切な防除を実施してください。
- ・ヨトウムシ類の発生が多くなると予想されます。ふ化幼虫の加害により葉が白く変色するなどの症状を早期に発見するよう努め、発生を認めた場合は適切に防除を実施してください。
- ・その他の病虫害の発生動向としては、水稻では斑点米カメムシ類、大豆では吸実性カメムシ類及びハダニ類、野菜では、イチゴ炭そ病、アブラムシ類、ハダニ類及びネギアザミウマ、果樹では、ハダニ類、ナシ黒星病及びモモせん孔細菌病、茶ではカンザワハダニ、チャノコカクモンハマキ、チャノホソガ及びチャノミドリヒメヨコバイの発生が多いと予想されます。

気象・環境

○気象庁の向こう1か月の予報（9月15日付け）では、気温は、全国で高いと予想されています。降水量は、西日本及び沖縄・奄美で多い、東日本で平年並み又は多いと予想されています。日照時間は、東日本、西日本及び沖縄・奄美で平年並み又は少ないと予想されています。

○8月下旬から9月中旬にかけて、台風の接近や通過によって、降雨や暴風が続き、広い範囲で農作物の損傷や冠水等の被害が発生しました。これらの地域では農作物に病害が発生しやすくなっていると考えられます。ほ場の観察をきめ細かく行い、病害の早期発見に努めるとともに、気象情報を十分に把握し、防除の実施に努めてください。

水稻

水稻で各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病虫害及び地域

作物名	病虫害名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
水稻	いもち病	近畿（奈良）	南関東（埼玉）、東海（岐阜）、中国（山口）、四国（香川、愛媛）、九州（佐賀、宮崎）
	ごま葉枯病	北陸（富山）、東海（静岡）	中国（岡山）

紋枯病	北陸（ <u>富山</u> ）、近畿（ <u>京都</u> ）	関東（群馬、埼玉）、東海（静岡）、中国（岡山）、北九州（佐賀）
斑点米カメムシ類	北東北（秋田）、北関東（茨城）、九州（ <u>佐賀</u> 、鹿児島）	近畿（京都、和歌山）、四国（香川、愛媛）
セジロウンカ	関東（茨城、埼玉）	北陸（富山）、東海（静岡）、近畿（大阪）、南九州（宮崎）
トビイロウンカ	九州（佐賀、宮崎、鹿児島）	

注1) 都道府県名の下線は、各地の平年値より「多い」と予想されることを指し、下線なしは、「やや多い」と予想されることを指します。

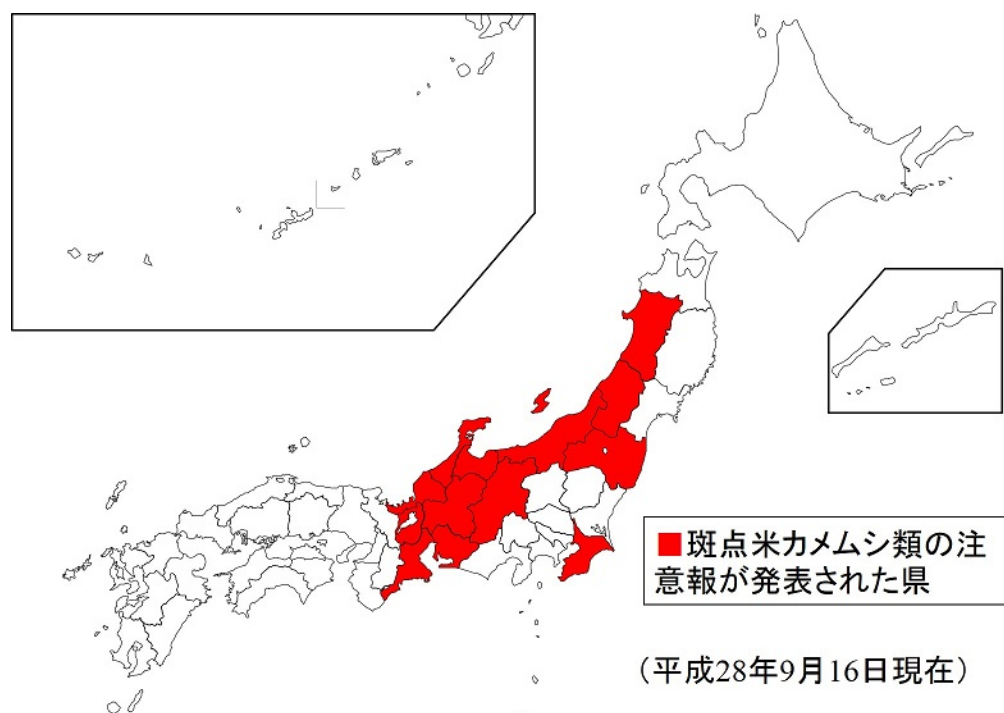
注2) 表中の「都道府県」については、必ずしも、その全域で発生がみられるものではありません。

< 斑点米カメムシ類 >

○**斑点米カメムシ類**の発生が、多くの地域で「多い」又は「やや多い」と予想されており、6月中旬から9月16日現在までに13県(延べ15 件)が本虫の注意報を発表しています。各都道府県の防除基準等に従い、適期に適切な防除を実施してください。

・本虫の防除は、生息地となる休耕田、畦畔及び水田周辺の雑草を管理し、密度を低減させることが基本です。

・本虫は、地域によって種類構成が異なり、防除適期も異なることから、各都道府県の防除基準等に従い、適期に適切な防除を実施してください。



< イネいもち病 >

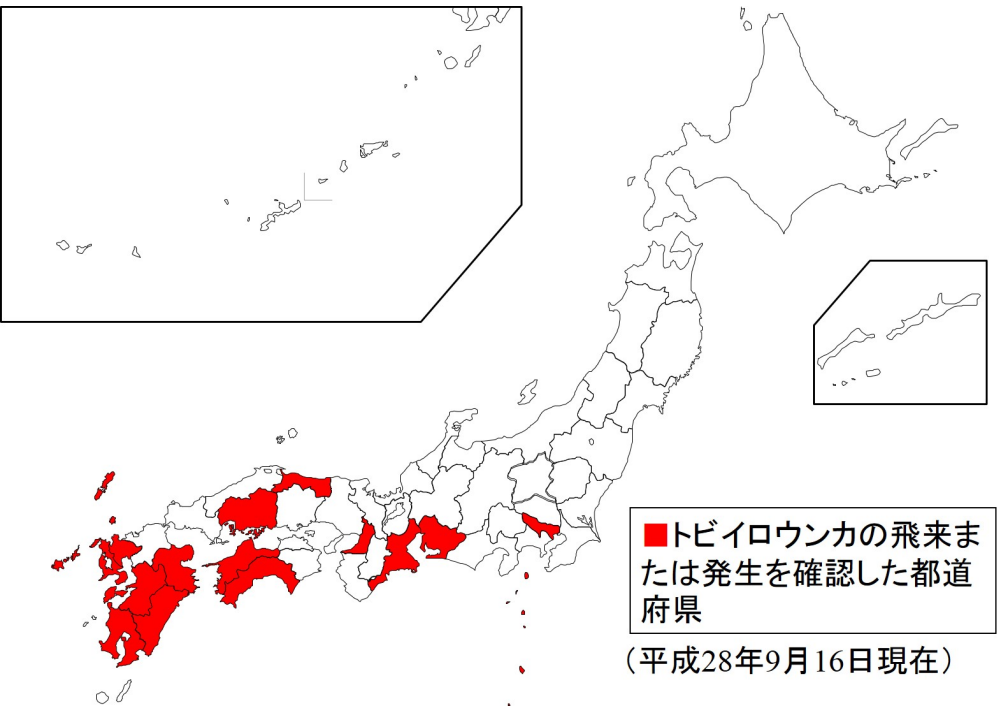
○**イネいもち病**の発生は、西日本を中心に、「多い」又は「やや多い」と予想されます。稲が濡れた状態が長時間続くと、本病の発生が助長され、穂いもちが多発することが懸念されます。収穫時期の遅い地域では、引き続き、本田の観察をきめ細かく行い、適期に適切な防除を実施してください。

・通常、本病が多発しない地域においても、天候の推移によっては多発することがあります。穂いもちの発生は大きな減収につながることから、多発が予想される場合には、使用する登録農薬の使用時期（収穫前日数）に注意して、適宜、防除を実施してください。

<トビイロウンカ>

○トビイロウンカの注意報が、9月8日に鹿児島県で発表されています。本虫は、梅雨明け後の気温が高く推移した年の9月下旬以降に、急速に個体数が増加し、坪枯れ等の被害症状により、本虫の発生が確認されることあります。本虫の飛来や発生が確認された地域だけでなく、その周辺地域においても、注意深く本田を観察し、早期発見に努めてください。本虫の発生が確認された場合、各都道府県の防除基準や要防除水準等を確認し、適期に適切な防除を実施してください。

- ・本虫の防除適期は、第2世代及び第3世代幼虫が発生する時期が有効とされています。
- ・近年、特定の薬剤に対する感受性が低下した個体が確認されていますので、都道府県が発表する発生予察情報を参考に、適切な薬剤を選択してください。また、都道府県等が発表する今後の飛来情報に留意するとともに、水田での発生状況に十分注意してください。
- ・本虫は水稻の株元に集まることから、見回りの際は株元を中心に観察してください。



大豆

大豆で各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病虫害及びその地域

作物名	病虫害名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
大豆	吸実性カメムシ類	東海（岐阜、三重）、北九州（佐賀）	北東北（岩手）、北陸（石川）、四国（香川）
	ハスモンヨトウ	北関東（栃木、群馬）、北陸（富山、石川）、東海（岐阜、静岡、三重）、近畿（滋賀、京都、兵庫）、中国（鳥取、島根、岡山、山口）、四国（香川）、九州（佐賀、長崎、熊本、鹿児島）	
	ハダニ類	北陸（石川、福井）、東海（静岡）、近畿（滋賀、京都）	北関東（茨城）、北九州（大分）

注1) 都道府県名の下線は、各地の平年値より「多い」と予想されることを指し、下線なしは、「やや多い」と予想されることを指します。

注2) 表中の「都道府県」については、必ずしも、その全域で発生がみられるものではありません。

○吸実性カメムシ類、ハスモンヨトウ及びハダニ類の発生が、多くの地域で「多い」又は「やや多い」と予想されています。ほ場を注意深く観察し、早期発見・早期防除に努めることが重要です。特に、ハスモンヨトウについては、9月16日現在で、10県で注意報が発表されています。ふ化幼虫の加害により葉が白く変色するなどの症状を早期に発見するよう努め、発生を認めた場合は適切に防除を実施してください。

野菜・花き

野菜・花きで各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病害虫及びその地域

作物名	病害虫名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
野菜共通	アブラムシ類	関東（群馬、埼玉、神奈川）、北九州（長崎、大分）	北陸（石川）、東海（岐阜）、中国（山口）、四国（徳島）
	アザミウマ類		南東北（福島）、南関東（千葉）、北陸（石川、福井）、東海（岐阜）、近畿（京都）
	コナジラミ類	東海（岐阜）	北東北（秋田）、北関東（栃木）、南九州（熊本、宮崎）
	コナガ	中国（島根、岡山）	北東北（岩手）、北陸（福井）、東海（愛知）
	ハスモンヨトウ	北関東（栃木、群馬）、北陸（富山、石川、福井）、東海（岐阜）、四国（徳島、香川、愛媛）	近畿（滋賀、京都、兵庫）、中国（鳥取、島根、岡山、山口）、南九州（宮崎、熊本、鹿児島）
	シロイチモジヨトウ	北陸（富山、石川）、東海（愛知）、四国（徳島、香川）	
	タバコガ類	四国（徳島、香川）	東北（青森、福島）、甲信（山梨）、北陸（石川）、東海（岐阜、愛知、三重）、近畿（大阪）、中国（山口）、北九州（大分）
いちご	ハダニ類	南東北（宮城）、北九州（佐賀）	北関東（栃木）、北陸（福井）、東海（静岡）、近畿（奈良）、四国（愛媛）
	炭そ病	東海（静岡）	南東北（宮城）、北関東（栃木）、四国（愛媛）、北九州（福岡）
きゅうり	うどんこ病		南東北（宮城）、南関東（埼玉）、近畿（京都）、中国（岡山）、南九州（宮崎）
	べと病		東北（岩手、宮城、福島）、四国（愛媛）、南九州（宮崎）

なす	うどんこ病		関東（茨城、埼玉）、東海（岐阜）、近畿（京都、大阪、奈良）
	ハダニ類	北陸（富山、石川、 <u>福井</u> ）	関東（栃木、埼玉）、近畿（京都）、中国（山口）、四国（徳島）
ねぎ	さび病	北陸（ <u>富山</u> 、 <u>福井</u> ）	北東北（岩手、秋田）、北関東（茨城）
	ネギアザミウマ	北東北（青森、岩手、 <u>秋田</u> ）、北陸（ <u>富山</u> ）、東海（ <u>静岡</u> 、三重）、近畿（ <u>京都</u> ）	南関東（東京）、中国（鳥取）、北九州（大分）
	黒斑病	北陸（ <u>富山</u> ）	北東北（岩手、秋田）
きく	白さび病		南東北（福島）、東海（岐阜）、近畿（奈良）、四国（香川）
	タバコガ類	四国（ <u>香川</u> ）	北陸（富山）、東海（愛知）、近畿（大阪）

注1) 都道府県名の下線は、各地の平年値より「多い」と予想されることを指し、下線なしは、「やや多い」と予想されることを指します。

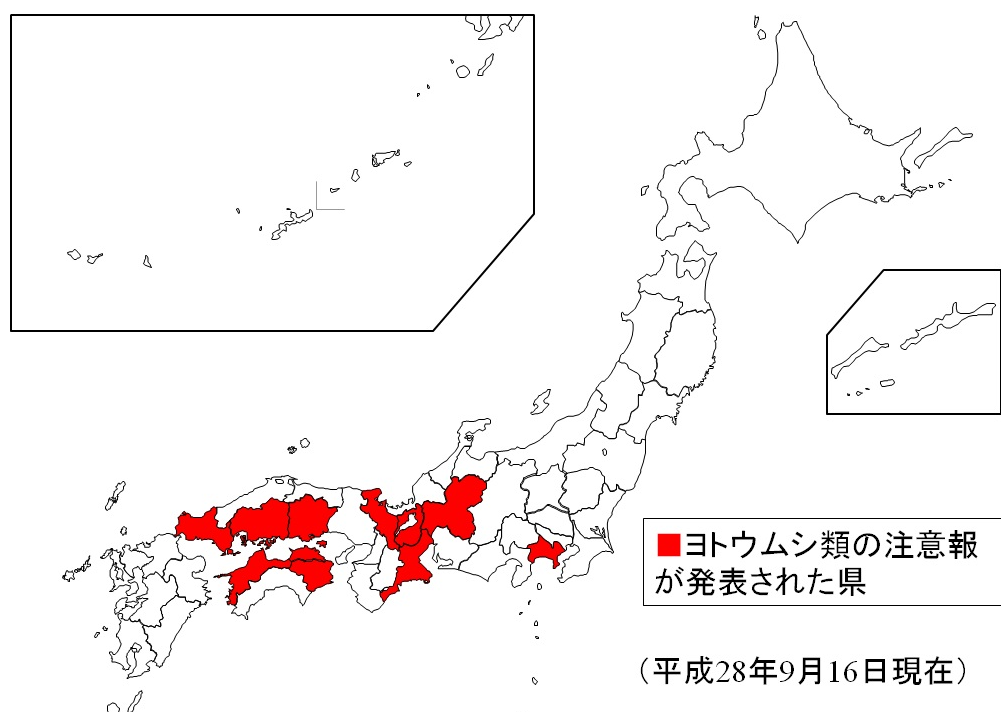
注2) 表中の「都道府県」については、必ずしも、その全域で発生がみられるものではありません。

< 野菜共通 >

○**アブラムシ類**及び**アザミウマ類**の発生が、多くの地域で「多い」又は「やや多い」と予想されています。本虫は作物を加害するほか、多くの植物ウイルス病を媒介することが知られています。発生密度が高くなってからでは防除が困難となるため、ほ場の観察をきめ細かく行い、発生初期に防除を実施してください。

○**ヨトウムシ類**の発生が、多くの地域で「多い」又は「やや多い」と予想されており、9月16日現在で、11県（延べ13件）が本虫の注意報を発表しています。ほ場の観察をきめ細かく行い、ふ化幼虫の加害により葉が白く変色するなどの症状を早期に発見するよう努め、発生を認めた場合は適切に防除を実施してください。

○**タバコガ類**の注意報が、9月2日に徳島県で、9月6日に香川県で発表されています。本虫は、野菜の株や果実に食入してからでは防除が困難となるため、ほ場の観察をきめ細かく行い早期発見に努め、発生を認めた場合は適切に防除を実施してください。



<いちご>

○**ハダニ類**の発生が、多くの地域で「多い」又は「やや多い」と予想されており、9月1日に長崎県で注意報が発表されています。育苗期での発生は、施設へのハダニ類の持込みにつながることから、育苗期や定植後の早期発見に努め、寄生葉の除去や薬剤防除を実施してください。

○**イチゴ炭そ病**の発生が、多くの地域で「多い」又は「やや多い」と予想されており、9月1日に長崎県で注意報が発表されています。育苗床が多湿にならないよう、排水対策等に努めてください。また、定植前までの薬剤防除や定植苗の選別を徹底し、り病株を本圃に持ち込まないようにしてください。

<ねぎ>

○**ネギアザミウマ**の発生が、多くの地域で「多い」又は「やや多い」と予想されます。本虫は、発生密度が高くなってからでは防除が困難となるため、ほ場の観察をきめ細かく行い、発生初期に防除を実施してください。

果樹・茶

果樹・茶で各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病虫害及びその地域

作物名	病虫害名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
果樹共通	カメムシ類	北陸（石川）	北東北（秋田）、近畿（奈良）、中国（鳥取、山口）、四国（徳島）
かんきつ	黒点病	九州（佐賀、鹿児島）	四国（香川、愛媛）
	ミカンハダニ	中国（山口）、九州（佐賀、大分、熊本）	南関東（神奈川）、四国（香川、愛媛）
かき	炭そ病	四国（香川、愛媛）	北九州（福岡）

なし	黒星病	東北（ <u>秋田</u> 、 <u>宮城</u> ）、近畿（ <u>京都</u> ）	東海（ <u>岐阜</u> ）、中国（ <u>鳥取</u> ）
	ハダニ類	北東北（ <u>秋田</u> ）、北陸（ <u>石川</u> 、 <u>福井</u> ）、北九州（ <u>佐賀</u> ）	関東（ <u>茨城</u> 、 <u>埼玉</u> ）、東海（ <u>岐阜</u> ）、近畿（ <u>京都</u> ）、中国（ <u>鳥取</u> ）
ぶどう	べと病	北東北（ <u>秋田</u> ）	南関東（ <u>神奈川</u> ）、甲信（ <u>山梨</u> ）、近畿（ <u>滋賀</u> ）、中国（ <u>岡山</u> ）、四国（ <u>香川</u> ）
もも	せん孔細菌病	東海（ <u>愛知</u> ）、四国（ <u>香川</u> ）	南東北（ <u>山形</u> 、 <u>福島</u> ）、近畿（ <u>大阪</u> ）
りんご	ハダニ類	北東北（ <u>岩手</u> ）、北陸（ <u>石川</u> ）、東海（ <u>岐阜</u> ）	
茶	炭そ病	東海（ <u>岐阜</u> 、 <u>三重</u> ）	南関東（ <u>埼玉</u> ）、近畿（ <u>滋賀</u> ）
	カンザワハダニ	南関東（ <u>埼玉</u> ）、近畿（ <u>滋賀</u> 、 <u>京都</u> 、 <u>奈良</u> ）、九州（ <u>佐賀</u> 、 <u>熊本</u> 、 <u>鹿児島</u> ）	
	チャノコカクモンハマキ	東海（ <u>岐阜</u> 、 <u>三重</u> ）、近畿（ <u>京都</u> 、 <u>奈良</u> ）	南関東（ <u>埼玉</u> 、 <u>東京</u> ）、九州（ <u>佐賀</u> 、 <u>宮崎</u> ）
	チャノホソガ	東海（ <u>岐阜</u> ）、近畿（ <u>滋賀</u> ）	九州（ <u>佐賀</u> 、 <u>宮崎</u> ）
	チャノミドリヒメヨコバイ	南関東（ <u>埼玉</u> 、 <u>神奈川</u> ）、近畿（ <u>京都</u> ）、北九州（ <u>佐賀</u> ）	

注1) 都道府県名の下線は、各地の平年値より「多い」と予想されることを指し、下線なしは、「やや多い」と予想されることを指します。

注2) 表中の「都道府県」については、必ずしも、その全域で発生がみられるものではありません。

< 果樹共通 >

○**果樹カメムシ類**の注意報が、9月8日に佐賀県で発表されています。現在、本虫が確認されていない園地でも、今後、森林で発生した新成虫が、餌を求めて移動し、飛来するおそれがあります。特に、森林に近い園地や毎年本虫の発生の多い園では、注意が必要です。園内の観察をきめ細かく行い、適期に適切な防除を実施してください。

○**ハダニ類**の発生が、多くの地域で「多い」又は「やや多い」と予想されます。カブリダニ類等の有用な土着天敵の活動により、発生が抑制されることもありますが、園内の観察をきめ細かく行い、発生状況に応じて防除を実施してください。

< なし >

○**ナシ黒星病**の発生が、多くの地域で「多い」又は「やや多い」と予想されます。各都道府県の防除基準等に従い、秋季防除を適切に実施してください。

・葉や枝上の菌は、越冬して翌春の一次伝染源となるため、落葉及び罹病部位を除去し、園内の菌密度を下げるのが重要です。また、本病菌は、芽の基部でも越冬し、翌春に病斑を形成するため、萌芽期以降、園内のきめ細かな観察と適時適切な薬剤防除が必要です。

< もも >

○**モモせん孔細菌病**は、秋季の葉への発生が、多くの地域で「多い」又は「やや多い」と予想されており、8月31日に和歌山県で注意報が発表されています。翌年の発生を抑えるため、収穫後に、薬剤散布等の秋季防除を行うことが効果的です。特に、本年は8月下旬から、台風の接近や通過によって、降雨や暴風が続いたため、樹体上に病原菌が拡散した可能性があります。各都道府県の防除基準等に従い、適期に適切な防除を実施してください。

・本病は、前年の発生が多いと、翌年の春型枝病斑の発生が多くなることが知られています。今年度、本病の発生が多かった地域では秋季防除を徹底してください。また、本病のり病部は伝染源となります。このため、ほ場内をよく観察し、り病部を見つけた場合は、直ちに除去し、土中に埋める等、適切に処分をしてください。

<キウイフルーツ>

○**キウイフルーツかいよう病**は、早期発見、早期防除に努め、感染樹を発見した際は適切に発症部位の除去等を行うことが必要です。ほ場の観察をきめ細かく行い、適期に適切な防除を実施してください。

・本病は剪定作業や風雨等により葉や枝の傷口等から病原細菌が侵入し、感染する病気です。夏季は高温のため病勢が低下し、症状を確認しにくい時期ですが、枝幹部からの樹液の漏出、葉の褐色斑点、新梢の変色や枯れ込み等の症状に注意しながら園内の見回りを実施し、早期発見・早期防除に努めてください。

・感染樹を発見した際は、分散防止のため登録農薬を施用し、速やかに発症部位の基部寄りから切除（骨格枝あるいは主幹側に強く切り戻し）等を実施してください。

・ハサミなどの作業器具は、樹ごとに200ppm以上の濃度の次亜塩素酸ナトリウム水溶液又は70%エタノールを用いて消毒し、枝等の切除を行った際は、切り口に登録農薬（チオファネートメチル剤）を塗布することを徹底してください。切除及び伐採を行った枝等は、土中への埋没又は焼却により処分をしてください。

<うめ>

○**ウメ輪紋病**の発生地域では、**アブラムシ類**の防除を徹底してください。

・本病はアブラムシ類によって媒介されるうめ、もも、すもも等のサクラ属植物の病気です。秋にかけて、アブラムシ類の発生が多くなることから、本病の発生が確認されている地域では、生産ほ場に加えて、民家の庭木や公園樹等においても、アブラムシ類の発生初期での薬剤防除を徹底してください。

<茶>

○**カンザワハダニ、チャノコカクモンハマキ、チャノホソガ及びチャノミドリヒメヨコバイ**の発生が、多くの地域で「多い」又は「やや多い」と予想されます。多発茶園では、秋冬番茶摘採後、各都道府県の防除基準等に従って適切な防除を行い、越冬個体数を削減してください。

都道府県が発表した警報、注意報及び特殊報

平成28年8月23日以降、都道府県が発表している警報、注意報及び特殊報は以下のとおりです。

警報

重要な病害虫が大発生することが予測され、かつ、早急に防除措置を講ずる必要がある場合に発表します。

・発表はありません。

注意報

警報を発表するほどではないが、重要な病害虫が多発することが予測され、かつ、早めに防除措置を講じる必要がある場合に発表します。

発表月日	都道府県名	対象作物名	対象病害虫名
8月25日	広島県	キャベツ、アスパラガスなど 野菜類、花き類及び大豆	ハスモンヨトウ
8月30日	滋賀県	大豆、野菜類、花き	ハスモンヨトウ
8月31日	和歌山県	もも	モモせん孔細菌病
8月31日	三重県	大豆、野菜類（アブラナ科野菜など）、花き類（シクラメン、キクなど）	ハスモンヨトウ
9月1日	山口県	大豆、野菜類、花き類	ハスモンヨトウ
9月1日	長崎県	いちご（育苗床）	イチゴ炭そ病
9月1日	長崎県	いちご	ハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）
9月2日	徳島県	大豆、野菜類、花き類	ヨトウムシ類（ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ）、オオタバコガ
9月6日	香川県	大豆及び野菜・花き類全般	ハスモンヨトウ
9月6日	香川県	ねぎ、アスパラガス、きく、カーネーションなど	シロイチモジヨトウ
9月6日	香川県	野菜類・花き類（なす、トマト、ミニトマト、ピーマン、オクラ、ブロッコリー、レタス、きく、カーネーションなど）	タバコガ類（タバコガ、オオタバコガ）
9月7日	岡山県	大豆、野菜類、花き類	ハスモンヨトウ
9月8日	佐賀県	果樹全般	果樹カメムシ類
9月8日	鹿児島県	普通期水稻	トビイロウンカ
9月15日	岐阜県	大豆、野菜類、花き類	ハスモンヨトウ
9月15日	愛媛県	大豆、サトイモ、いちご等野菜・花き類	ハスモンヨトウ
9月16日	京都府	ねぎ	シロイチモジヨトウ
9月16日	京都府	豆類（黒大豆、えだまめ、あずき等）、野菜類	ハスモンヨトウ

特殊報

新たな病害虫を発見した場合及び重要な病害虫の発生消長に特異な現象が認められた場合に発表します。

発表月日	都道府県名	対象作物名	対象病害虫名
8月26日	新潟県	すいか	スイカ炭腐病、スイカ黒点根腐病

9月2日	愛知県	ブルーベリー	ブルーベリートマバエ（仮称）
9月7日	香川県	びわ	ビワキジラミ
9月12日	島根県	シクラメン	シクラメンえそ斑紋病（INSV）

病虫害防除に関する留意事項

一般

- ・病虫害の防除を効果的に実施するためには、病虫害の発生状況を的確に把握し、早期発見に努め、適期の防除につなげることが大切です。病虫害の発生は天候の影響を大きく受けるので、天候の状況に注意しつつ、各都道府県の防除基準等に従い、適期に適切な防除を実施してください。
- ・薬剤防除を実施する場合は、適切な薬剤を選択するとともに、病虫害が薬剤抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。また、農薬の使用基準を遵守し、散布対象外の農作物等に農薬が飛散しないよう対策を講じてください。

露地栽培

- ・これまで、多雨等の病害が発生しやすい気象条件が続いたことから、引き続きほ場観察を行い病害の早期発見に努め、発生を認めた場合は適期に薬剤防除を実施してください。害虫の動きが活発な時期であることから、ほ場観察をきめ細かく行い、病虫害の早期発見、適期防除に努めてください。

施設栽培

- ・ウイルス病を媒介するアザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類等の侵入や野外への飛び出しを防止するため、施設の開口部に防虫ネットを設置するなどの対策を実施してください。また、雑草はこれらの害虫の発生源となりますので、施設内及び周辺の定期的な除草に努めてください。
- ・作物残さは、害虫の発生源となり、り病葉、り病果は、病害の伝染源となります。栽培終了後は蒸し込み処理等を行い、作物残さでの生存虫を死滅させてから搬出し、土中に埋める等、確実に処分をしてください。
- ・施設内が過湿になると、病害の発生が助長されるため、施設周辺に排水路を整備して、雨水が施設内に入らないように留意するとともに、過度なかん水を回避する、循環扇を設置する、換気を行う、作物の株間の通風を図るなどにより、施設内が過湿にならないように管理してください。また、病害の早期発見に努め、伝染源となるり病葉やり病果は除去し、適期に薬剤防除を実施してください。

緊急防除に関する事項

ウメ輪紋病の発生地域においては、緊急防除を実施しています。感染植物の廃棄等への御協力を引き続きよろしくお願いいたします。また、**ジャガイモシロシストセンチュウ**が確認された地域では、引き続き土壌の移動防止などのまん延防止対策の徹底をお願いします。

用語解説

地域

北海道：北海道

東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

北東北：青森県、岩手県、秋田県

南東北：宮城県、山形県、福島県
関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
北関東：茨城県、栃木県、群馬県
南関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
甲信：山梨県、長野県
北陸：新潟県、富山県、石川県、福井県
東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
北九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県
南九州：熊本県、宮崎県、鹿児島県
沖縄：沖縄県

■ 発生量（程度）

多い（高い：やや多いの外側10%の度数の入る幅
やや多い（やや高い）：平年並の外側20%の度数の入る幅
平年並：平年値を中心として40%の度数の入る幅
やや少ない（やや低い）：平年並の外側20%の度数の入る幅
少ない（低い）：やや少ないの外側10%の度数の入る幅
（平年値は過去10年間の平均）

■ 平成28年度発表予定日

第8号：10月18日（火曜日）
第9号：11月22日（火曜日）
第10号：平成29年2月21日（火曜日）
（参考）これまでの発表
第1号：4月19日（火曜日）
第2号：5月24日（火曜日）
第3号：6月21日（火曜日）
第4号：7月12日（火曜日）
第5号：7月26日（火曜日）
第6号：8月23日（火曜日）

【お問合せ先】

消費・安全局植物防疫課
担当者：防除班 春日井、紋谷
代表：03-3502-8111（内線4562）
ダイヤルイン：03-3502-3382
FAX：03-3502-3386